

# こども教育会議 会議録(速記メモ)

|                                 |                             |    |   |
|---------------------------------|-----------------------------|----|---|
| 日時<br>令和5年7月4日(火)<br>9:30~10:40 | 場所<br>武雄市役所<br>4階会議室        | 出席 | 小松市長、松尾教育長、大庭教育長職務代理者、<br>教育委員(馬場、山口、牟田、松尾、田中、大渡、井手)、<br>古賀こども教育部長、諸岡こども教育部理事、教育総務課(木村課長)、こども未来課(古田課長、徳永参事)、学校教育課(小川課長、真崎参事)、新しい学校づくり課(石橋課長、浦郷係長)、生涯学習課(朝長課長)、文化課(宮原課長、井手室長)、市民協働課(飯田主幹、立花主幹)、スポーツ課(井手課長)、こども家庭課(田寄課長)、庭木企画部長、山北企画部理事、企画政策課(小柳課長、力安係長、西村) |
| 1. 協議件名                         | 第32回こども教育会議(第3期教育大綱の策定について) |    |   |

## 議事録

|    |   |
|----|---|
| 内容 | <p><b>1 開会</b>(進行:庭木企画部長)</p> <p><b>2 議事</b>(議事進行:小松市長)</p> <p>(1)第3期教育大綱の策定について</p> <p>①話題提供</p> <p>企画政策課及び教育総務課から、前回の教育大綱「組む」の振り返りでの意見や、今回の変更点(①対象年齢が22歳まで拡充された点、②各種団体等の外部の意見を取り入れた点)、本日協議すべき内容等について説明を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p>&lt;出席者の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先日、社会福祉協議会の評議員として参加し、ゴミの片づけ支援など様々な活動をされていることを知った。誰一人として取り残さないために、社会支援の内容を周知させることや連携して解決策を見出すことが大切。</li> <li>・地域づくりや地域連帯感を大事にしたい。多世代交流や地域を活かした活動を行うことにより、郷土愛が生まれ、笑顔溢れる地域になる。地域連帯で言えば、花まる学習会も続けていくことが大事。</li> <li>・各種関連団体の中に「若者サポートステーション」や「社会福祉協議会」も位置付けてほしい。「つながり」や「協働」を大切にしたい。</li> <li>・地域の規模によって活動に格差が出る。行政がどのように地域支援を行うかを具体的に示す必要がある。</li> <li>・今後、若者たちとともに地域をどう育てるか、支えていくかを考えたい。部活動の地域移行も含め、全体的にまちづくりを考えていかないと地域間で差が出る。</li> <li>・武雄市を愛し、将来、武雄市に住みたい、働きたいと思える要素を教育大綱に盛り込みたい。</li> <li>・子育ての3本柱「学校、家庭、地域」に「企業」も加える。企業には就労面などで子どもたちを支えるなど、企業も子育てに巻き込んでほしい。</li> <li>・武雄市は花まる学習会が魅力的である。今後は、移住定住にも繋げた教育イベントを開催するなど、もっと花まる学習会を盛り上げてほしい。</li> <li>・未就学児の支援については、今年度の夏休みなどに認定こども園と小学校の教職員との交流研修を行い、相互理解を深める。今後、より多くの認定こども園が参加できるよう、行政の協力も得たい。</li> <li>・市内に複合的な運動公園があれば、部活動の地域移行でも活用できる。</li> <li>・子どもたちについてこれほどの団体が考えてくれていることが嬉しく思う。</li> <li>・ここ4年間で感じたことは、「認める」、「認め合う」ことの大切さ。家庭や社会で子どもたちを育てること、相手を尊重すること、子どもを一人の人間として尊重すること、こどもの権利を考えること。</li> <li>・子どもたちが楽しくて学びたい、会いたい、明日も行きたいと今よりもっと思える学校づくりをもう一度考えたい。時</li> </ul> |
|----|---|

代に合った取り組み(多様性、多文化、グローバル、近代、メディア教育)なども取り入れた武雄市ならではの学校づくり、教育づくりをしたい。

- ・「つながる教育」の大切さ。幼・保・小の連携に加え、新たな環境に子どもたちが合わせるのではなく、子どもたちの一つ前の段階(幼稚園・保育園の入園前の家庭の状況や小学校から中学校に行く際の小学校での様子)でどう過ごしていたかを考える。
- ・今回、新たに大学ができることで、効率的・近代的なことを導入すれば、先生の負担も減り、働き方改革にも繋がる。活用できるものは活用し、人間にしかできないことを大切にしたい。
- ・「ふるさと教育」の大切さ。武雄で愛された子どもは、いつか武雄のためになりたいと思うし、武雄に帰りたいと思うかもしれない。親や先生以外の第三者の大人の存在が子どもたちに良い影響を与えるので、たくさんの地域の人が関わることも大事。
- ・声が上げやすい仕組みをつくる。子ども、親、学校、先生、地域などが困ったときに助けてと言える環境や相談窓口をつくることで住みやすくなる。
- ・子ども中心で、これほどの関係機関が子どもたちのことを考えている武雄市だからこそできる教育を大切にし、それが教育大綱に繋がればと思う。
- ・教育大綱は市としての教育のビジョンを示すものであり、すべてを網羅する必要はない。市の教育大綱は、武雄市の子どもが幸せに生きてほしいという願いを込めて、メリハリのある大綱にしていきたい。
- ・指針については少ない方がいい。「④心身の健康に関すること(仮)」は「②子ども、家庭への支援に関すること(仮)」に入れたほうが見えやすい。武雄市が取り組むべきことは、地域社会をどうするか、地域からどう支援を受けているか、子どもや家庭がどう困っているかということに焦点を当てた施策を行うこと。
- ・対象年齢について、第2期の際に市内から市外の学校に通う子どもの考え方が課題だった。第3期では22歳までに範囲が広がるが、また同じような課題が出てくるため、対象とする学生や学校を明確にしておく必要がある。
- ・取捨選択、不易流行を見極めて、新しい教育や発達段階に応じた教育ができるのが武雄市の魅力。教員の働き方改革も含め、発達段階に応じた教育を行うと、すき間ができ、教員に余裕ができる。その結果、子どもたちも教員に相談できる。
- ・基本は、家庭教育。社会規範を教えるとか難しいことではなく、家庭で一緒に食事をしながら会話するなど、どの家庭でもできる交流を家庭教育として目を向ける。
- ・祖父母世代、親世代、孫世代で共通の話題を持つこと。
- ・各種関連団体が、どこかで連携し、繋がり、関わりを持ちたい。
- ・子どもたちが自分たちの権利を考える機会があればいい。また、今の子どもたちが未来の武雄に望むものが、子どもたちの願いに繋がる。
- ・「子どもたちの命を守る」ことが大事。自殺を防ぐために、安心・安全な場所を作ることと、自分らしく生きることを社会が認めてあげる必要がある。
- ・社会では、子ども、大人、障がい者、高齢者などの双方のつながりの間を助けるような行政サポートがあればよい。また、大人が社会のあり方を共に学び行動することが必要である。
- ・子どもたちが一人でも学べることはオンラインで行い、学校は対面でできることをサポートする。
- ・自分なりに第3期教育大綱は「合う」がいいと思った。一方向ではなく相互に「認め(合う)」、子どもや大人、先生などが相互に「ほめ(合う)」などと結びつけた。

(教育長)

- ・最高の子育て教育環境をつくるために、地域と連携を図る、武雄の伝統文化を活かす。これぞ武雄の教育大綱とするにはどういう指針を立てればいいのか。具体的施策の内容が各指針において似たものにならないような教育大綱を望む。

- ・「不易流行」。変えてはいけないものは残さないといけない。

#### <市長の発言>

- ・教育大綱はメリハリのあるものにしなければいけない。今回の会議では、「教育大綱だからこそ」、「不易流行」、「地域」という言葉が聞かれた。
- ・「地域」について改めて考える。皆が考える地域は、ぼんやりしていたり、イメージするものが違っていたりする。そのままいくと、言葉だけは上滑りし、何も変わっていないということになる。
- ・社会福祉協議会や企業、幼・保・小の連携、つながる教育なども聞かれた。縦・横・斜めの連携でも、ある部分では斜めの連携だけなど各箇所バラバラに感じるため、連携を改めて考える。
- ・新しくできる文化拠点は若者が気軽に自己表現ができる場にしてほしいと考えている。若者と一緒に考える、意見を取り入れることがキーワード。
- ・「多様性」、「認め合う」には、文化やアート、新大学が大きなきっかけになる。異質なものを取り入れることで多様性や寛容性に繋がっていく。
- ・「家庭」、「こどもたちの希望」も大事にしたい。
- ・教育は希望。今こそ教育のあり方を大きく変える時期である。
- ・個人や学校、家庭、地域、社会のあり方もデザインし直す時期であると感じた。
- ・これまでの「組む」イメージは、学校と地域など子どもたちのために誰かと誰かが組む、子どもたちの周りにいる支援者が組むというのが中心だった。第3期の教育大綱では、子ども、先生、保護者、地域、企業も自分事として捉えられるようなものにしたい。

### 3 閉会(進行:庭木企画部長)